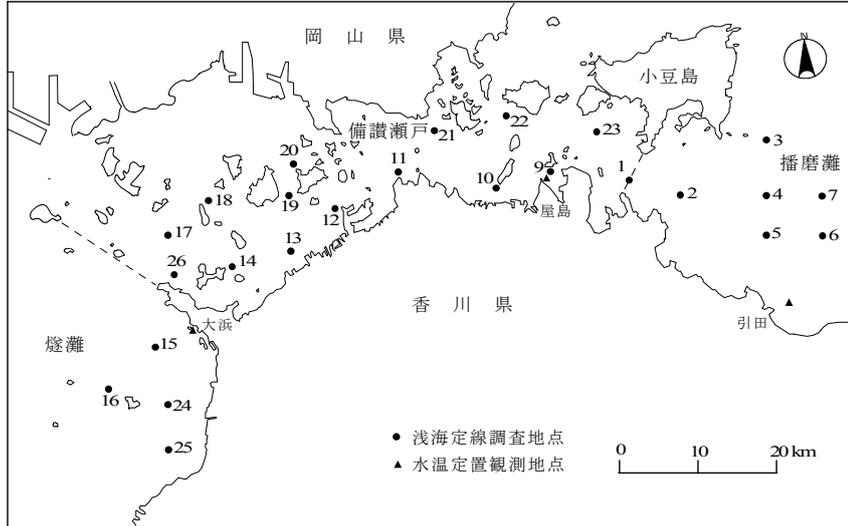


香川県漁海況速報 平成22年1月 (H21-10号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成22年1月12日（播磨灘），8日（備讃瀬戸，燧灘）

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「平年並みからやや高め」であった。

1月

		水 温 (°C)			塩 分 (PSU)			透 明 度 (m)	溶 存 酸 素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播 磨 灘	7地点平均値	12.7	12.5	12.2	32.7	32.7	32.9	9.3	6.12	6.09
	平年値	12.5	12.4	12.4	32.5	32.5	32.5	7.7	5.96	5.92
	平年偏差	0.3	0.1	-0.3	0.2	0.3	0.4	1.7	0.16	0.17
	標準偏差(σ)	1.0	1.0	1.1	0.6	0.6	0.6	1.9	0.23	0.25
	状 況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め
備 讃 瀬 戸	14地点平均値	11.5	11.5	11.5	33.2	33.2	33.2	5.6	6.14	6.21
	平年値	11.9	11.8	11.8	32.6	32.6	32.6	5.6	5.96	5.97
	平年偏差	-0.3	-0.3	-0.4	0.6	0.6	0.6	0.0	0.18	0.24
	標準偏差(σ)	0.9	0.9	0.9	0.6	0.6	0.6	1.6	0.25	0.24
	状 況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや高め	やや高め
燧 灘	4地点平均値	12.5	12.5	12.5	33.3	33.4	33.3	6.1	6.09	6.03
	平年値	12.5	12.5	12.6	32.8	32.8	32.9	7.5	6.05	5.93
	平年偏差	0.0	0.0	-0.1	0.5	0.5	0.5	-1.4	0.04	0.10
	標準偏差(σ)	0.8	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	2.0	0.27	0.20
	状 況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	平年並み

平年偏差＝平均値－平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶 存 酸 素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$ (σ ：標準偏差)

やや高め（やや低め） $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め（かなり低め） $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め（著しく低め） $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

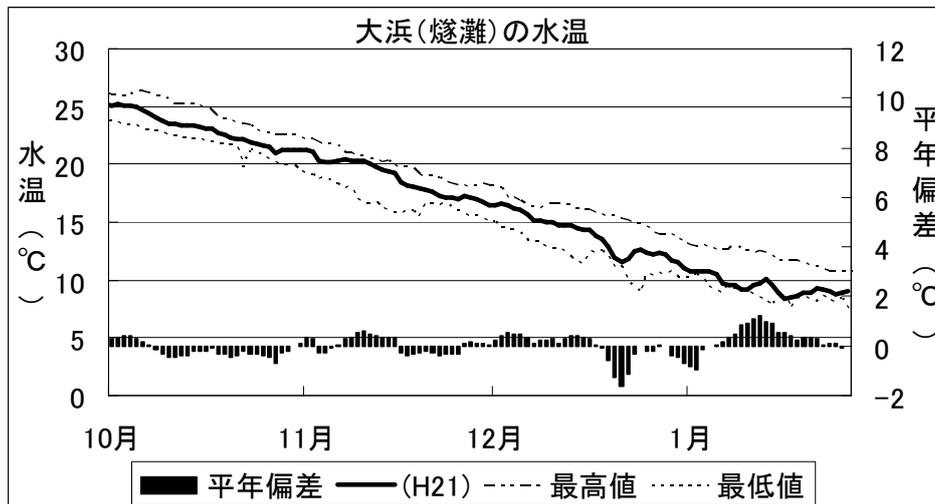
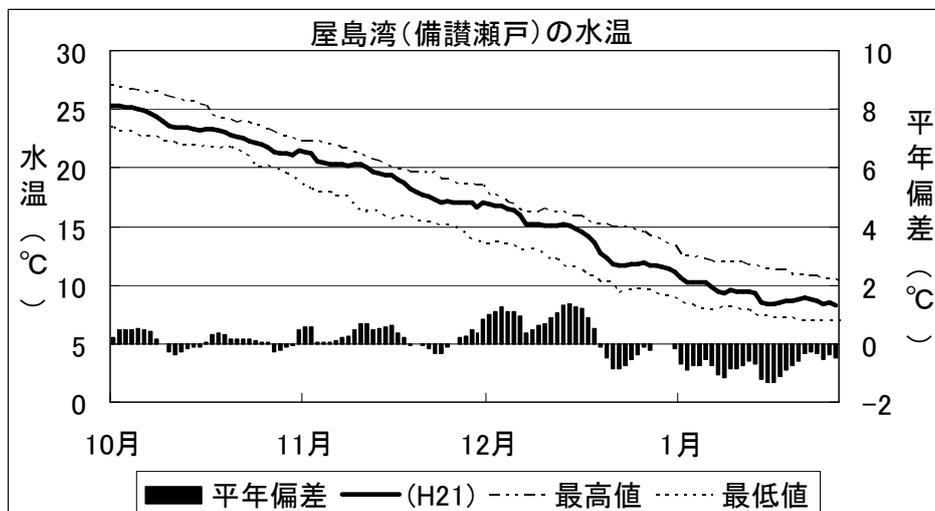
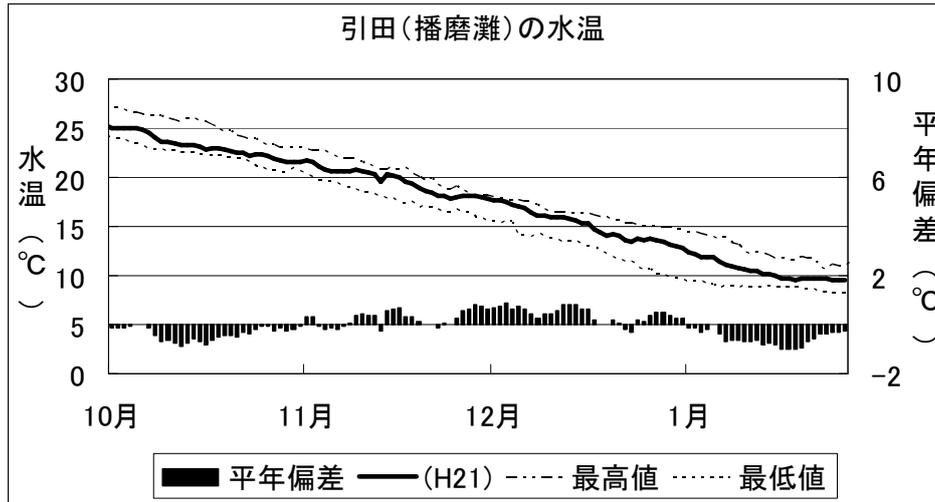
3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 10 月以降, やや低めで推移していたが, 11~12 月は平年並みかやや高め、1 月からは平年並みかやや低めで推移している。

備讃瀬戸 (屋島) : 10 月以降は平年並みで推移していたが, 12 月はやや高めからやや高め (一部かなり高め) から下旬にはやや低めとなり、以後、平年並みからかなり低めで推移している。

燧灘 (大浜) : 10 月からは概ね平年並みで推移していたが, 12 月下旬にかなり低めの日があった。1 月以降は平年並みからやや高め (一部かなり高め) で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 20 (2008) 年
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 20 (2008) 年



4) 赤潮 (12月18日～1月25日)

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成22年1月8日 (播磨灘), 12日 (備讃瀬戸, 燧灘)

出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	1.3
	平年値	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.5		
	対平年 (%)	-	0	-	0	-	176		
備讃瀬戸	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.9
	平年値	0.0	0.0	0.2	0.5	0.0	4.9		
	対平年 (%)	-	-	0	0	-	106		
燧灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	平年値	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1		
	対平年 (%)	0	0	0	0	-	0.0		
総平均	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	1.0
	平年値	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	3.5		
	対平年 (%)	0	0	0	0	-	120		

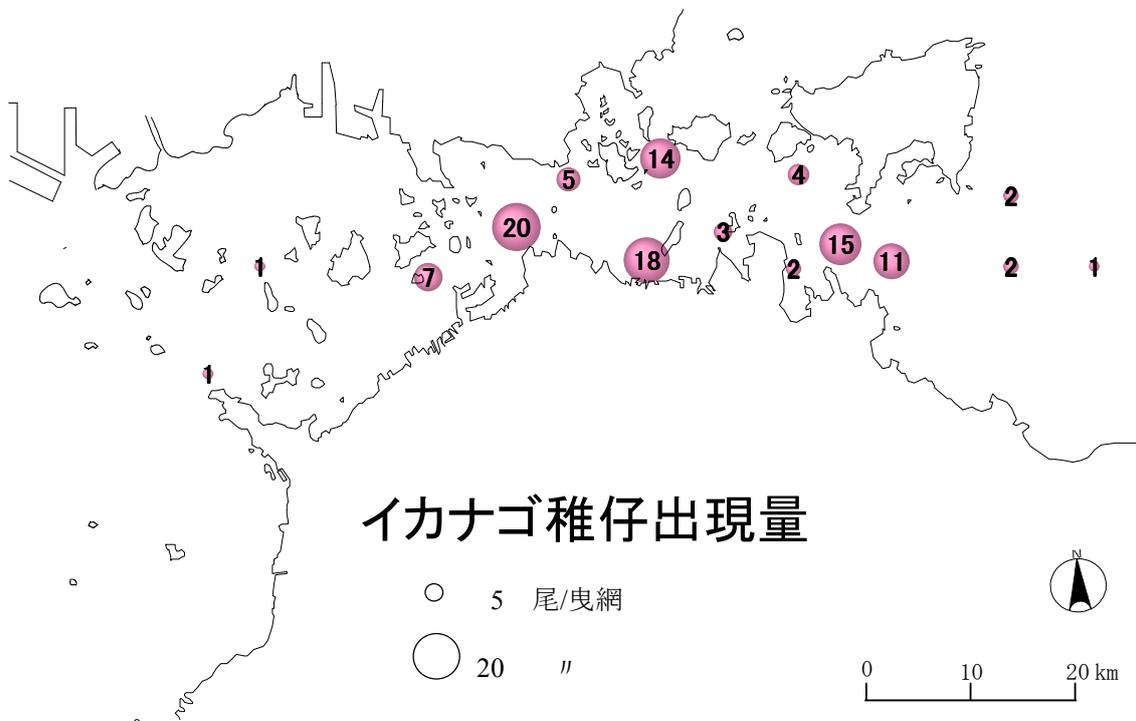
－：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成20年(2008)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成20年(2008)年度

今回の調査点ではカタクチイワシ卵は、確認されなかった。



2. 漁況

1 2月からの漁況は次のとおりである

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類, マコガレイ, オニオコゼ, カワハギ, 小エビ類が漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマアジ, マダイ, マボラ, カワハギ, マコガレイが漁獲されているが, 低調である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類, メイタガレイ, マアナゴ, カワハギ, スズキ, マボラ, マダコ, イイダコ, コウイカ類, 小エビ類が漁獲されている。</p> <p>中讃・高松沖のたいらぎ潜水器漁業の漁獲量は前年同期の約2分1程度で, 10~30Kg/隻・日程度と依然低調である。</p> <p>高松沖のいかなご込し網は前年同様1月15日から操業が開始された。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ, マコガレイ, スズキ, イヌノシタ, オニオコゼ, マダコ, 小エビ類が漁獲されているが, イヌノシタ, ガザミが少ない。</p> <p>柵網では主にマダイ, クロダイ, スズキ, マコガレイ, ウマヅラハギ, シリヤケイカが漁獲されている。</p>